いいたてっ子運動会

5/23

草野・飯樋・臼石小学校

うんどう会

飯舘中学校校庭にて

今年の「いいたてっ子運動会」は、団体競技だけでなく個人競技の全着順でも順位に応じた点数が入る方式。一人ひとりがチームの勝利を目指して取り組みました。競技には、村の名所や伝統芸能が盛り込まれていて、保護者や祖父母もふるさとを感じながら応援や競技参加を楽しみました。

考えてみっぺ、村の学校

～今年の飯舘村の教育～　第14回

Q 平成27年度村教育委員会の教育施策のひとつ、「自己肯定感の高揚」について教えてください！

A **自己肯定感の高め方について八巻義徳教育長に聞いてみました！**

自己肯定感とは、自分が「生きる価値のある人間」、「誰かに必要とされる人間」、「かけがえのない人間」などと自分自身を肯定する感情です。それは、思ったより幼い時につくられます。家庭、幼稚園、保育所などでの大人の接し方が大切です。

1．いつも「あなたの味方」と伝える。

「かけがえのない子ども」、「応援している」ことを声に出して伝えましょう。

2．小さな成功体験を積ませる。

積み木や苦手な人参を食べたことなどを、「できたね」、「すごいね」と褒めましょう。

3．子どもの頑張りを認める。

失敗しても、笑顔で、「大丈夫、頑張ったね」と声を掛けましょう。

4．子どもの話を本気できく。

途中で、口を挟んだり、スマホを見ないで、最後までじっくり聞きましょう。そして、感想や思いを伝えてあげましょう。

5．「ありがとう」を伝える。

「どうせ自分なんて…」という思いを消す魔法のことばは、「ありがとう。助かったよ」です。もっともっと「ありがとう」のことばを増やしてください。

高い自己肯定感は、人生の様々な場面で可能性を広げます。子どもたちの「できた」、「わかった」、「やった」を積み重ね、未来の担い手の自己肯定感を高めましょう。

飯舘村教育長　八巻義徳

子ども達の「できた」「わかった」「やった」を増やして、未来の可能性を広げてみっぺ！

母、ママ、お母さん

飯舘村教育委員会
学校教育指導員　海野　和夫

昨今の教育相談で感じることは子育ての重荷が母親の背に重くのしかかり過ぎているということです。その上、生活のために働いてもいます。母親の心身の疲労は極限に達しているという人もいます。疲労困憊（こんぱい）の中での子育ては子どもにとっても家族全体にとっても不幸です。

子どもの最大の関心は母親とのかかわり、愛情の交換です。うれしい時やつらい時、どんな時でも母親と優しい眼で見つめ合えるひとときが人生でもっとも貴重なよろこびの体験です。この体験の累積が人格を創ります。

母　ママ　お母さん／おふくろ　茶ぶくろ／気取って呼んでも　ふざけてとなえても／おふくろはおふくろ　母は母／ひざにしみてた匂いが／いまでも鼻の奥に生きている／鼻の奥に生きている（サトウ　ハチロー）

母の匂いはひざにしみ、鼻の奥に生きるのですね。飯舘村のお母さん方へのお願いです。例え疲労の中にあっても、どうぞ母の匂いが子どものひざにしみ、鼻の奥に生きるくらいたくさん、わが子に愛情を授け続けてください。疲労感がやわらぎ、親子ともども生きがいのあるしっかりした人生を体験できるのは確かです。

教育相談の申し込み　飯舘中学校教頭まで
☎024-573-1161